

「湯之尾小学校の湯之尾神舞伝承活動の取組」

1 学校名

伊佐市立湯之尾小学校

2 学年・人数

1～6年生（計13人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成29年9月～11月（湯之尾神社「舞庭」・神社隣の集会施設）

(2) 発表の日時・場所

平成29年11月23日（木）湯之尾神社「豊祭」奉納（湯之尾神社「舞庭」）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

湯之尾神舞（ゆのおかんめ）※鹿児島県指定無形民俗文化財

(2) 由来

起源は室町時代の後期と推定され、500年以上の歴史がある。肥後と日向の両国にまたがる九州中央山岳地帯の高千穂を中心に伝承されたもので、日向地方の影響を受け伝わったといわれている。かつては湯之尾郷中の人々が、五穀豊穰・無病息災を祈願するため、旧暦霜月満月の夜、夜を徹して35番演舞奉納されていた。現在では26番が継承され、11月23日「豊祭」の日に奉納している。

(3) 構成等

今年は3年に一度の大祭で、現在継承されている26番の舞をすべて演じた（その他の年は17番程度）。一つ一つの舞は面や衣装、用具が異なり、舞人も小学1年生から60歳代までと幅も広い。舞によって1人の舞、2人や4人での舞、最大7人の舞まであり、持つ道具や装束もそれぞれ違っている。小学生は、低学年4人と大人1人で舞う「花舞」や高学年4人で舞う「四方神楽」等を奉納している。

5 保存会や地域との連携の具体

神舞は構成等が多種多様で、幅広い年齢層で構成される湯之尾神舞保存会が中心になって伝承に取り組んでいる。また、近年は、教職員や中高生を含めた児童生徒とその保護者や、多くの地域の方々の協力のもと、地域ぐるみで運営されている。

練習時のあいさつ（来たとき・練習を始めるとき・終わるとき）・はき物の脱ぎ方等、最近の家庭では、あまり経験できないようなこともよい学びの機会になっている。

平日は夜の練習となるが、保護者も喜んで協力している。小学1年生になったら「花舞」を舞うことができることを、児童本人だけでなく保護者や祖父母、地域の方々も楽しみにしている。また、大祭の奉納当日は午後4時から翌日午前1時ぐらいになるため、夜食の準備等も地域ぐるみで行われている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

小学1年生全員に「花舞」等への参加を呼びかけ、できるだけ神舞に参加して興味をもってもらうようにしている。また、毎年小学校の教職員も児童と一緒に舞ったり笛を吹いたりして積極的に参加し、その素晴らしさを身をもって学んでいる。

現在、舞人・楽人として活躍しているのは幼少時から神舞に参加してきた方がほとんどである。また、神舞をした経験をもつ成人が協力体制を作ることで、

長期間に渡る練習や準備，奉納等が円滑に運営できている。

7 取組の様子



【一番舞】



【花舞】



【四方荒神・四方神楽】



【尊舞（踏剣）】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

(1) 参加児童

練習は大変だったが，奉納の時，装束を身につけると気が引き締まって上手に舞ができた。見ている人から沢山の拍手をいただき，涙が出るぐらいうれしかった。また，来年も参加したいと思う。

(2) 保護者

自分が小さい頃は，舞をしたくてもなかなかできななかったが，自分の子どもが参加できたことが誇らしく思えた。大変な練習や準備があるが，これからもできる限り協力していきたいと思っている。

(3) 保存会

多くの伝統芸能保存会は人集めに難儀しているが，湯之尾神舞は参加したいという子どもが多く，うれしい状況だ。練習や準備，編成も大変な作業だが，地域の伝統と誇りを次の世代に伝えていきたい。

(4) 教職員

仕事後の練習は大変だが，子どもたちや地域の方々と一緒に汗を流す中で，心も体も磨かれる思いがする。また，神舞に参加した子どもたちは，どの子どももやり遂げた喜びと自信にあふれ，大きく成長していることを実感しており，地域や保護者の方々には感謝でいっぱいである。